

令和5年度 ”社会を明るくする運動“可児地区作文コンテスト

中学生の部 可児保護区保護司会 会長賞

「何でもいいや」

可児市立西可児中学校 3年

小澤 大壽

犯罪や非行というとなんか難しく思いつきません。お母さんと話をしてみると、お母さんに怒られて喧嘩した時に、僕が二時間くらい行き先を言わずに家を出たことがあり、その時の気持ちのもっと激しくなったものではないかと言われました。

あの時には、とても腹が立って、お母さんに会いたくなくて、お母さんが困ればいいと思って出て行きました。

自分が思っていた以上に怒られて、悪かったと思っているのに言えなくて黙っていると、お母さんともっと話がかみ合わなくて、「もういいわ、どうでもいい、知らない。」と自暴自棄になるような感情になりました。

僕は、もともと帰るつもりで家を出たし、時間が経って、お母さんが心配しているかな？と思って戻りました。

僕が連絡も取れずいなくなり、お母さんもお父さんも、おじいちゃんもおばあちゃんもみんな探し回っていたそうです。僕が帰って来て、おばあちゃんから連絡を受けたお母さんが戻ると、涙をながして、怒りながら「よかった」と言いました。

お母さんが困ればいいと思っていましたが、実際にお母さんが泣いているところを見て、重たい気持ちになり嫌な気分になりました。「心配をかけて酷いことをしたな。」と反省しました。

こうならないためには、もっと素直な気持ちで話しをじっくりしていたらよかったのかもしれない。「もう、どうでもいいや。」という気持ちになると、家族の愛情がわからなくなったり、友達にも連絡を取らなくなったり、いろいろな大事な関係に気付かなくなるし、周りからたくさんのお支えがあって生きてることが分からなくなってしまうのではないかと思います。

犯罪や非行に走るというのは、「どうなってもいいや」という気持ちになってしまう所がスタートなのかもしれません。

先生や友達、家族や知り合いの人とあいさつや、何でもない話から、腹が立っていることや困っていることを聞いてもらって共感してもらえたり、話を聞いて自分と同じ思いを持っていることに安心したりすることで、「どうなってもいいや」という気持ちが少なくなっていくと思います。

「誰にもわかってもらえない、無視される、否定されてばかり、共感してもらえない、話をしてもきられる。」こんな事ばかりでは、どんなことも楽しくなくなるし、他の人が笑っていることを理解できないと思います。

突然話をしようと思ってもできないので、普段から、あいさつしたり、特に用事がなくても話し掛けてみたりしてコミュニケーションをとると良いのかもしれないと考えました。

喧嘩やトラブルになった時には、考え方を単純にして、何が原因か、どうすればよかったか、双方の歩み寄れるポイントを探して、お互いが「どうなってもいいや」にならない着地点を見つけることも大事だと思いました。

僕はコミュニケーション能力が高くないのでとても難しいですが、「周りからたくさんの支えがあって生きていること」を忘れずに「どうなってもいいや」にならないように気持ちを整えておきたいと思います。